

[主旨]

日本経済は、景気回復基調が続き、個人消費も緩やかな回復に戻り、内外需ともに底堅いが、先行きの懸念も持たれている。

世界的には、アメリカのトランプ政権、中国の一帶一路政策、北朝鮮の核問題、中東や欧州などの政治問題が不安定で、経済にも影響を及ぼしている。

中小企業においては、質の高いものづくり、海外市場に目を向ける企業が増えている。デザインをエンジンにして、付加価値、経済価値の高いものづくりを働きかけていくことが我々の課題である。

大阪デザインセンターは、平成26年4月1日に一般財団化し、「民に近い公益」の見地から諸事業を進めている。

平成29年度には、「中長期事業スキーム」を修正して、①価値創造開発軸、②情報価値共有軸、③国際軸 の3軸で、事業を絞り込みながら、取り組んだ。

国際軸の新規事業として、デザイン商品の販路として人々の目が外国、EUに向いているので、中小企業7社を募ってパリの大規模展示会「メゾン・エ・オブジェ」に出展した。インテリア、建築素材系の商品に絞って出展した結果、大変好評を得て、その後の商談も盛況であった。しかし、当財団としては、国のJAPANブランド育成支援事業補助金が得られずに多額の持ち出しとなった半面、事業効果として見合ったものが乏しく、今後の反省材料である。

また、人材育成事業の新規事業である、「小学校におけるデザインを活かした創造性教育」事業において開発した授業カリキュラムは、小学校現場の先生、生徒から大きな反響があり、社会課題の解決、デザインの普及という点からも今後の可能性が広がっている。29年度には、ふさわしいテーマが無くて「大阪デザインカンファレンス」を実施できなかったが、「大阪キッズデザインカンファレンス」の開催も目指して、今後、取り組んでいきたい。

当財団の平成29年度の経常収益は40,131,922円、経常費用は114,711,735円となり、74,579,813円の赤字となっている。そのほとんどは、公益に関する事業として認可を受けた実施事業の赤字額73,829,533円である。

正味財産の期末残高は、960,570,951円と前年よりも69,390,233円の減少となっており、これは経常収支の赤字分を特定資産の売却によって補ったことによるものである。

これは、有価証券の売却収入を公益事業に充当するという公益目的支出計画の目標に沿うものであり、計画を着実に履行しつつある。

事業実施にあたっては、今後とも、外部の補助金獲得を目指して取り組んでいく。

## [事業実施結果]

事業費総額	104,658,530 円	(人件費、間接経費を含む)
事業収益総額	40,131,922 円	

## I (価値) 開発軸

### 1. 人材育成

#### ① デザインプロデューサー育成講座 ( 697 千円 )

今後必要とされるビジネス・パーソンとして、命題に対して美しい答えを見える化できる「ソリューション能力」のある人、市場ニーズ、商流を理解して、経営的な観点から商品や仕組みをプロデュースできる人材を養成した。

時期 平成 29 年 10 月 3 日 (火) から 11 月 7 日 (火) まで 6 回。

16 : 00 ~ 18 : 00 (週に 1 回程度)

場所 ODC SEMBA 会議室

講師 川添光代、小関隆一、石本和治、明上誠治、吉田順年、上野祐子 各氏

参加料 60,000 円

参加者 21 名

#### ② 商品パッケージ企画実習講座 ( 1,016 千円 )

商品の良さや魅力、ブランドの価値を伝えているのは、まさにパッケージ。実務経験豊富なプロのデザイナーを講師に迎え、消費者に選ばれるパッケージづくりに向けて、基礎知識から効果的な展開手法まで、体感的に修得した。

好評につき、シリーズを 2 回実施した。

時期 ① 4 月 19 日 (水) ~ 6 月 7 日 (水) 16 : 00 ~ 19 : 00 全 7 回

② 10 月 18 日 (水) ~ 11 月 29 日 (水) 16 : 00 ~ 19 : 00 全 7 回

場所 ODC SEMBA 会議室

講師 三河内 英樹、坂元 雄二、奥田 利枝子、大崎 淳治、大力 千津子、竹内 美江、北中 正紀、松尾 政明 各氏

テーマ 商品の 3 要素「中身・パッケージ・価格」のバランス 他。

参加料 60,000 円

参加者 16 名 × 2 回

#### ③ デザイン・インターンシップ ( 1,749 千円 )

デザイナーを目指す学生にデザイン事務所で実際に学ばせ、デザインスキルや企画提案能力、コミュニケーション能力や社会人としての礼儀、マナーなどの必要性を学ばせた。

昨年度までは J K A の補助事業として採択されたが、本年度は不採択であった

め、自主事業として実施経費を半減して実施した。

時期 夏休み期間中 7/18（火）から 9/30（土）までの 14 日間

参加学生 神戸芸術工科大学、京都造形芸術大学、大阪芸術大学などの学生 20 人

受け入れ先 アスピリン、adoria company、アイデア（株）など 大阪市内 20 か所のデザイン事務所

参加料 無料

#### ④ デザイン・シンポジウム （ 47 千円 ）

従来、市民やビジネスマン、特に企業経営者層に、デザインの力、デザインの価値を理解してもらうための啓発シンポジウムを開催してきたが、今年度は、デザイン実務家に関心が高い、「知的財産」に関して大阪工業大学知的財産学部及び特許庁意匠課との連携によって、セミナーとパネルディスカッションを実施した。

##### 「知財セミナー」

「知的財産権制度との賢い付き合い方」をテーマに製品デザインの知財を守り、リスクに備える方法を具体的な事例を交えながら紹介した。

日時 1 月 19 日（金）

場所 大阪工業大学梅田キャンパス O I T 梅田タワーセミナー室

講師 藤澤崇彦氏（特許庁）、岡田充弘氏（セキセイ株）、清水隆之氏（RISE. DESIGN）

参加者 72 名

参加費 無料

#### ⑤ デザインによる子どもの創造性を育む教育モデル事業 （ 3,962 千円 ）

デザインによる創造的な力を活用しながら、問題解決を図る方法が広く取り入れられるようになり、これらの力を低年齢期から育成する必要性が求められているが、小学校では学級担任が全教科を担当するため、デザインを活かした教育を専門的に行うことは難しい。

これまで作品制作を主眼としてきた小学校の美術教育（図画工作）等に、デザイナーやプロの芸術家等の外部の専門人材を派遣し、子どもたちが直接本物に触れ、モノやコトを身体全体で感じとれるようなカリキュラムを提供することで、豊かな創造性や発想力、他者への伝達力やコミュニケーション力などを養うモデル授業として教育現場へ発展・展開していくこととし、本事業を実施した。

今年度は、事業公募による N P O 法人（フリンジシアタープロジェクト）への委託事業として、大阪市立大空小学校（住吉区）でのモデル授業の実施を行ったのに加え、大阪市阿倍野区役所の協力を得て、大阪市立丸山小学校（阿倍野区）でのモデル授業を財団直営で実施し、2つのカリキュラムを作成・実施した。

なお、本事業に対して J K A からの補助金 1,468 千円を獲得した。

##### （実施内容）

##### 1. 大空小学校（住吉区）【フリンジシアタープロジェクト委託事業】

アニメーションや演劇手法を用いてカリキュラムへの理解を助け、他者への共感やアイテムづくり、発表を通して「問題解決型デザイン力」を養った。

**【6年生 2クラス（20名、21名）】**

① 11月27日（月）

3時限（10：50～11：35）～6時限（14：45～15：30）各クラス2時限ずつ  
100年後の未来人のための寝坊防止装置「アートゴフン」を創作した。

**【5年生 2クラス（22名、23名）】**

② 1月15日（月）

3時限（10：50～11：35）～6時限（14：45～15：30）各クラス2時限ずつ  
宇宙のかなた、重力の軽い「ディヤネン星」からやってきたディヤネン君のため  
の「コロバヌ先のツエ」を創作した。

**2. 丸山小学校（阿倍野区） 【直営事業】**

「○△□であそぶ」をテーマとして、身の回りにおける様々な○△□を発見する、○  
△□を描く、構造の違いや形の意味も学び、○△□形の工作体験も行った。

**【3年生 2クラス（39名、39名）】**

① 12月1日（金）（第1回）

3時限（10：50～11：35）～6時限（14：45～15：30）各クラス2時限ずつ

② 12月8日（金）（第2回） 立体工作 椅子の製作と図案塗り

同上

**【1年生 2クラス（32名、32名）】**

③ 1月18日（木）（第1回）

1時限（8：55～9：40）～4時限（11：45～12：30）各クラス2時限ずつ

④ 1月25日（木）（第2回） 平面工作 額縁の中に○△□形の組合せ絵画

同上

## 2 デザイン研究開発

### (1) デザインをエンジンとしたソリューション（0千円）

ものづくりのシーズに着目して、デザインをエンジンとしたカタチづくりの機会を  
創出し、デザインビジネスにコミットしていくこととしていたが、事業構想デザイ  
ンのなかで検討した。

① 知財、素材、技術、文化のシーズ実現型（素材を活かすJAPANブランド）

② 各企業の強みと弱みの組合せ型

③ 社会課題解決型（大阪デザインカンファレンス）

検討結果を、H30年度のオープンイノベーション研究機構事業として実施予定で  
ある。

## II（価値）共有軸

### 1 デザイン情報の共有、交流の場づくり（13,884千円）

#### (1) 大阪デザインカンファレンス（0千円）

デザインが社会と産業に貢献すべきだという立場から、数多い社会課題の中から現在の重要課題をピックアップして、デザインの切り口で新たなソリューションを生み出すことを目指す。そのための共同作業の場、出会いの場として、「大阪デザイン・カンファレンス」の開催について検討した。

29年度は、実施するのにふさわしいテーマが無かったが、今後、「キッズ・デザイン・カンファレンス」の観点での開催を目指して検討する。

## (2) 情報発信、ホームページの充実 ( 間接経費で実施 )

当センター事業の開催告知など新しい情報をホームページにその都度発信するとともに、大阪を主とする多様なデザインに関する取組みをサイト内の「KANSAI DESIGN INFO.」や公式 facebook で情報提供した。

操作性の改善やコンテンツの再編、コラムの執筆などを行い、ユーザーが求める情報への到達率向上を図るとともに、SNS と連動させてアクセス数をアップさせた。メルマガにおいても毎週、当センター事業をはじめ他機関・団体のセミナー・イベント・コンペ情報を掲載して発行した。

引き続き、経営資源としてのデザインの重要性を広く PR するとともに中小企業におけるデザイン活用促進の一助とするため、企業経営におけるデザイン開発事例、優れたデザイン事務所や業界団体の取組みなどを紹介し、さらには学識経験者や専門性の高いデザイナーによるデザイン諸問題への提言、コラムなど、ホームページ、プロモーションビデオなどを活用してデザイン情報提供を幅広く発信する。

今後は、ホームページの構造を見直し、財団の目標、取り組み内容が正確に分かり易く伝わるようにさらに改善を進めていく。

## (3) 展示会等による情報発信 ( 10,937 千円)

### ① 「LIVING & DESIGN 2017」への出展 ( 937 千円)

「住まいと暮らしのリノベーション」をテーマに2010年から開催されている西日本最大規模の住空間の国際見本市に出展して、企業や流通関係者、一般市民に、デザインを活かしたものづくりの意識啓発を進め、大阪のデザイン力を広く PR した。

実施時期 平成29年10月11日(水)～13日(金)(3日間)

場 所 大阪南港 ATCホール

### ②「OSAKA STYLING EXPO」

(大阪商工会議所との連携事業 10,000 千円)

大阪商工会議所および大阪スタイリングエキスポ実行委員会(事務局:大阪商工会議所)が実施する「OSAKA STYLING EXPO」に主催者の構成団体として参画した。平成22年度から参画しており、今回で8年目となる。

同事業は、大阪らしいライフスタイルの発信を通じ、大阪の賑わい向上とファッション・ライフスタイル関連産業の振興に貢献することを目的とし、関西で活躍するクリエイター等が創り出す商品の中から、消費者に支持される商品をコーディネートし、「OSAKA STYLING」として発信することにより、消費の刺激、消費者起点の商品開発、新進クリエイターの発掘・育成等に資するものである。

プログラムは FASHON 部門と LIVING 部門で構成され、FASHON 部門は、メーカーの合同ファッションショー、新進ブランドの合同ファッションショーを中心に構成された。今回は、11月23日（祝）に堂島リバーフォーラムで開催され、2,379名の参加があった。

LIVING 部門では、大阪人の価値観に調和した優れたデザインや新しいライフスタイルの提案で毎日の生活を彩るプロダクトを募集、選定した商品の展示・販売会や各種催しがあべのハルカス近鉄本店で11月29日（水）から12月5日（火）まで開催され、67社の応募者のうちから選出された18社が出展した。（主催者である大阪スタイリングエキスポ実行委員会の構成団体は、当財団のほか、大阪商工会議所、大阪市、（協）関西ファッション連合などである。）

#### **(4) デザインデータベース （ 2,237 千円）**

①在阪を中心とするデザイン事務所データについて、業務内容・得意分野など関連情報を収集の上、ホームページにおいてアップすると共に、デザイン相談やデザイナー紹介などにおける利用者のニーズに応える案件にも活用した。

また、登録デザイン事務所に対して、当センターの関わるデザインイベント・セミナー等の情報をメルマガ等で提供した。

○登録デザイン事務所数 （平成30年5月25日現在）

- ・ビジュアルデザイン分野 351社（前年度は 333）
- ・プロダクトデザイン分野 118社（前年度は 112）
- ・スペースデザイン分野 67社（前年度は 63）

②JDF(財)国際デザイン交流協会の活動実績資料を整理し、活用可能な形でデータベース化を行った。

#### **(5) サロン交流 （ 709 千円）**

デザイン関係者、ものづくり企業等幅広い方々が気楽に集まって交流を図り、情報発信できる場をもつため、当財団所有の船場会議室を開放して、デザイントークと交流の場、「SEMBAサロン」を開催した。

平成29年度は、第74回から87回まで、延べ14回、185名の参加を得た。

うめきたのナレッジサロンは、関西の産・官・学のイノベーション拠点として、多彩な人々の結集拠点となっているので、引き続き、デザイン関係者がサロン入会を希望する場合の便宜を図り、連携・活用をしている。

#### **(6) 賀詞交歓会（再掲 343 千円）**

賛助会員をはじめデザイン団体関係者同士の交流・情報交換・親睦を目的に昨年度に引き続き開催した。

日時 平成30年1月11日

会場 ヴィアーレ大阪

参加者数 65名

記念講演 「鉄道サービスをデザインする」

大森正樹 氏（西日本旅客鉄道株式会社 鉄道設計技士、J I D A 会員）

## 2 デザインビジネスマッチング、ビジネス支援

### ① デザインビジネスプロモーションセンター(DPC)の運営 (11千円)

中小企業のデザイン導入・活用に関するあらゆる相談や情報提供、さらには要望に応じたデザイン事務所の紹介や個別カウンセリングを行うなど、中小企業とデザイナーとのビジネスマッチングに努めた。

ホームページでの情報発信やマッチング事例集配布に加えて、「大阪勧業展」への出展、当センター内外で事例紹介など積極的な広報を行った。

相談案件数 3,509 件、デザイナー紹介における成約率も 50.0%とほぼ前年と横ばいであるが、特にグラフィックやパッケージなどコミュニケーションデザイン分野の紹介案件数が前年比約 20%の落ち込みがあった。

今後、他機関との更なる連携を深め、事業の PR を強化すると共に、企業依頼内容に対するデザイナーとの的確なコーディネート業務に注力し、マッチングの精度を意識した取組みを実施したい。

本事業は、大阪市から受託していた公共事業を引き継ぐ形で、無料で実施しているが、一部有料化の方向を検討する。

### ア.デザイン一般相談・利用

一般相談・利用件数 3,509 件 (前年度は 3,570)

(内訳)

デザイン一般に関すること	デザイナー紹介に関すること	個別面談カウンセリングに関すること	データベースに関すること	その他	合計
1,763 (1,861)	1,183 (1,192)	64 (68)	300 (301)	199 (148)	3,509 (3,570)

### イ.デザイナー・デザイン事務所の紹介

依頼件数 122 社 (前年度は 137) 紹介件数 114 社 (前年度は 129)

(内訳)

プロダクトデザイン分野		スペースデザイン分野		コミュニケーションデザイン分野		合計
成約 (開発中含む)	27	成約 (開発中含む)	3	成約 (開発中含む)	31	61
交渉中	4	交渉中	0	交渉中	8	12
不成約	14	不成約	4	不成約	31	49
合計 (前年度)	45 (44)	合計 (5)	7 (5)	合計 (88)	70 (88)	122 (137)

※成約件数には、1 案件 (1 企業) と複数デザイン事務所とのマッチングもカウント

### ウ.DPC 専任コーディネーターならびに専門プロデューサーによる個別面談カウンセリング

DPC 専任コーディネーター(ODC 職員)対応 94 件／専門プロデューサー対応 8 件  
 合計カウンセリング件数=102 件 (前年度は 107)

(内訳)

プロダクトデザイン分野	スペースデザイン分野	コミュニケーションデザイン分野
49 (39)	4 (9)	49 (66)

※ ( ) は前年度の件数

## エ.外部展示会への出展等

- ・「LIVING&DESIGN」ATC ホール 平成 29 年 10 月 11 日・12 日・13 日 (3 日間) 開催  
 会場来場者数名 7,351 名 ブース来場者数 80 名
- ・「大阪勧業展」マイドームおおさか 平成 29 年 10 月 18 日・19 日 (2 日間) 開催  
 来場者数 7,751 名 ブース来場者数 136 名
- \* 中小企業のためのデザインセミナー「海外進出とデザイン対策」  
 平成 29 年 10 月 18 日 受講者数 15 名 講師：大高申一
- \* 中小企業のためのデザインセミナー「デザイナーと初めてのデザイン開発」  
 平成 29 年 10 月 19 日 受講者数 13 名 講師：釜田 聡
- ・「工場見学会」シンドー株式会社「染色工場の技とプロセスを学ぶ」  
 デザイン関係者への製造現場での技術情報の提供を目的に開催。  
 平成 29 年 11 月 28 日 参加者数 16 名 会場＝大阪市都島区

## ② 広報活動その他

- ・デザインイベント・セミナーでのチラシに加えて、マッチング成果事例集を新たに制作して配布。ホームページでのマッチング事例 (case study 掲載事例 累計 162 件) を相談企業の声と共に多数掲載して情報発信。
- ・当センターならびに大阪デザイン振興プラザにおけるマッチング事例の展示  
 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 展示点数約 20 点

## ③ 主な視察状況

4 月 27 日	岡山県産業労働部 産業振興課	3 名
5 月 16 日	長野県デザイン振興協会	3 名
10 月 11 日	I F D A	15 名
11 月 28 日	大阪府立西野田工科高等学校 (デザイン系 2 年生)	30 名
1 月 22 日	唐山美居家居建材股份有限公司	30 名

## 4 事業企画

### ① 中長期事業スキームの精査

昨年度末 (2017 年 3 月) に策定した中期事業スキームを再検討し、新たな中期事業スキーム (2018 年 3 月) として改訂し策定した。



## ② 他団体との連携

在阪の行政、商工団体、金融機関との連携を進めるとともに、他府県との交流、連携を強化するという方向性のもと、近畿経済産業局、和歌山県、堺市などの行政との調整を行うとともに、りそな銀行などとも情報交換を行った。

## Ⅲ 国際軸

### 1 国際的なデザイン交流

国際デザイン交流協会の理念を受け継ぎ、世界と日本とのデザイン交流を進めた。

#### ① 国際デザイン交流の基盤整備

相互理解に基づく交流を通じて、新たな価値を発見・創造することを目指し、2016年度に A.P.C.I (フランス工業創作振興会) と締結した交流協定を継続発展させるとともに、新たな交流の検討を模索したが、29年度は具体事業は実施せず、相互協力の意思確認を行った。

### 2 海外販路開拓支援

#### ① JAPANブランド育成支援事業(プロジェ・プロジェクト)

( 27,216 千円 参加費収入 4,752 千円)

経済産業省の「ふるさと名物応援事業補助金 ( J A P A Nブランド育成支援事業)」を受けて、『伝統・先端技術を活かして建材を国際化・ブランド化する戦略調査』(略称:プロジェ・プロジェクト)を実施する予定であったが、補助金は不採択になったため、ODCの自主事業として実施した。

#### 【目的・概要】

欧州・中東で需要が根強い高級建築資材・内装市場参入のために、フランスのメゾン・エ・オブジェのホール8 (プロジェ部門) への出展を目標として、量産型の建材にない日本独自の伝統・先端技術とデザインを活かし“共感されるグローバルブランド”で市場を開拓することとした。

・ H28 年度は、パリ現地調査、課題把握、参加企業勧誘、出展計画、などの戦略策定調査を J A P A Nブランドの補助金を得て行った。

・ 2年目(H29) 2017.9.8~14 にパリで開催された「メゾン・エ・オブジェ」に日本の企業7社とともに出展。前年度の経験を活かして、マーケットに合う商品を開発して提示するとともに、オーダーへの対応のバリエーション展開の多様性をインテリアデザイナー、ディストリビューター、プレスクリプターなどにアピールした。ブース来場者 3,829 名。会場の中でも注目を浴び、出展後の商談も多数あった。

出展企業：

no.	会社名	産地	出展品目
1	イーストンテック	栃木	ガラス製家具
2	株式会社 ユニオン	大阪	建築用ドアハンドル
3	瀧澤ベニア株式会社	北海道	積層合板・グッズ
4	猪俣美術建具店	新潟	組子
5	光洋製瓦株式会社	兵庫	瓦製インテリア壁材
6	株式会社五十崎社中	愛媛	デザイン和紙、壁紙
7	田川産業株式会社	福岡	田川産業株式会社

## ② コロナ・プロジェクト （ 1,074 千円 ）

フランスマーケットと日本の産地の実情に詳しく、どのようなブランド戦略、モノづくり、どのような販路に乗せればよいのかを、アドバイスしてもらえ、質の高いマーケット・アドバイザー ジャン・リュック・コロナ氏からパリの現地で指導してもらった。

平成 27 年度、28 年度に続き、3 年目。

<日程、内容>

2017. 9. 12 (火) 各社パリに現地集合して、各自、メゾン・エ・オブジェを視察  
2017. 9. 13 (水) 10:00~17:00 コロナ氏の講義と商材クリニック  
2017. 9. 14 (木) パリ市内数か所のセレクトショップを巡回して、現場での販売形態、各社にふさわしい店舗等の実地指導を受けた。

<参加者> 6 人 (5 社+個人 1 人)

<参加費用>

- 1 人@20 万円、4 社、@15 万円、1 人、@5 万円、1 社、計 100 万円  
(ODC の賛助会員は、1 人 15 万円)  
(これ以外に、パリへの渡航費、滞在費は各自負担)

## ③国際デザイン開発

デザイナーと企業の国際的な共同商品開発事業を促進、支援する予定であったので、フランスデザイン交流の継続で何件かの仲立ちを行なった。

# IV ODC 関係

## (1) 賛助会員の加入促進

健全な財政運営を図っていくためには、自主財源である賛助会費収入の安定的な確保が不可欠であり、引き続き、ODC が行う諸事業に賛助会員割引を設けて、新規加入促進に努めた。また、賛助会員には、各種デザイン情報のメール配信のほか、賛助会員証の発行、HP への明示、業務発注便宜など具体的な会員サービスの強化策を実施した。

賛助会員（平成 30 年 5 月 25 日現在）

企業	38 社
デザイン事務所	84 社
団体	9 団体
計	131

## (2) 商工経済団体との連携強化

大阪商工会議所、大阪府中小企業団体中央会、大阪府商工会連合会、大阪市工業会連合会などの商工経済団体との連携を強化し、諸事業の積極的な展開を図る。

## (3) 施設賃貸事業（賃貸収入 4,561 千円）

船場センタービル 4 号館に保有する 142.12 m<sup>2</sup>の資産を有効に活用するため、3 階部分は外部への賃貸を継続し、2 階は貸し会議室 S E M B A として活用した。

上記のうち、29 年度 S E M B A 貸会議室実績 47 件 賃料収入 300 千円

## (4) デザイン団体事務局受託（受託収入 1,486 千円）

大阪デザイン団体連合 USD-O、(公社)日本インダストリアルデザイナー協会 JIDA 関西ブロック、(公社)日本インテリアデザイナー協会 JID 西日本エリア、(一社)日本商環境デザイン協会 JCD 関西支部、あぷーん AP~N (Ageless Planning Network) からの委託を受け、各団体の事務局業務を推進し、各団体の支援に努めた。